



常磐館完成は

明治？大正？

2017年は、和暦で表すと平成29年。仮に昭和で表すなら昭和92年、同様に大正106年、明治150年にあたります。

昭和64年(1989年)は1月7日までで、翌日から平成元年1月8日になったので、西暦の下2桁から元年の1を引くと88という値を得ることができます。同様に昭和は差分25、大正は差分11、明治は差分67と覚えてしまうと、和暦と西暦の変換が容易になります。ある出来事が起きた年の元号を調べるにはこれでよほど足りるのですが、何月何日に改元されたかまで確認が必要な場合もあります。蒲郡の歴史を表現する際に、たびたび悩まされるのが、常磐館の完成と開業についてです。観光蒲郡の礎を築いた滝信四郎

が竹島海岸に建てた料理旅館・常磐館の完成披露案内状には、「明治四五年七月二十五日」と記されています。つまり常磐館の「完成」は明治です。しかしそれから一週間も経たない明治45年7月30日に即日改元され、大正元年7月30日となりました。残念ながら常磐館の開業日を記した資料には出会えていないため、開業時の元号がはずれなのは、明言しかねるのです。

常磐館は老朽化のため1982年に解体され、その跡地に「海辺の文学記念館」が建てられてから今年で20周年を迎えました。



常磐館浴室

博物館明治村正門内にある「新世界への扉」設けられた池の中にある、白線が目まを引く石は、常磐館浴室の壁面に使用されていたものです。

スナメリ・クリスマス!?

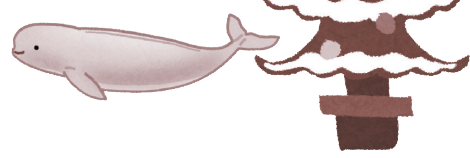
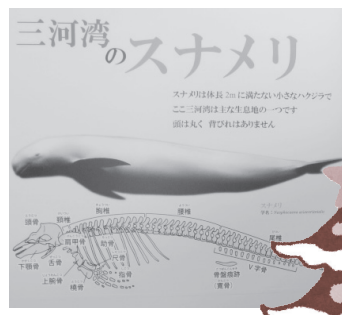
三河湾にも冬がやってきました。三河湾の海の生き物といえば、スナメリです。スナメリは小型のクジラの仲間で、その大きさは成体でも2メートルほど。明るい灰色の体をしていて、背ビレがないのが特徴です。クジラと聞いて最初に思い浮かべる、黒くて大きな姿とはちよつと違って、むしろ可愛らしい感じが、笑っているようにも見えます。海でスナメリを見かけたことがある方もいるのではないのでしょうか？

クジラの仲間は大きく「ハクジラ」「ヒゲクジラ」の2つのグループに分けることができます。スナメリは「ハクジラ」のグループに属していて、上顎から下顎から、小さな歯が並んで生えています。

一方、「ヒゲクジラ」の仲間はどうなクジラたちでしょうか。ヒゲクジラには歯はありませんが、上顎からまるで歯ブラシのような見た目の「クジラヒゲ」というものが生えています。大きく口を開けて海水ごとエサを口に含み、エサだけをクジラヒゲにひっかけて海水は口の外に出し、エサを飲み込むのです。クジラヒゲはヒゲという名前がついていても、私たち

ヒトのひげとはだいぶ違うものですね。ちなみに、生命の海科学館で「新種認定された化石クジラ」として話題になったインカクジラは、ヒゲクジラの仲間です。化石の口の中に、クジラヒゲの跡が残っていますよ。

また、科学館の1階にはクジラコーナーがあり、そこでスナメリの紹介もしています。楽しくスナメリのことを学んだら、素敵なスナメリ・クリスマスになるかも!?



生命の海から

専門嘱託員/博士(理学)
白瀧千夏子

生命の海科学館 ☎ 66・1717